

次期「JA静岡3か年計画」樹立へ

～ 第54回 静岡県農協大会 開催 ～

静岡県JAグループは12月7日、第54回静岡県農業協同組合大会を静岡市内で開催し、令和7年度から3年間の静岡県JAグループの方針となる「JA静岡3か年計画」農業と地域の未来をつむぐ、協同の力」の樹立・実践を決議しました。

次期「JA静岡3か年計画」(令和7～9年度)は、現2か年計画(令和5～6年度)の方向性を堅持しつつ、情勢変化に対応しながら、これまでの取り組みをさらに進めていくことを基本的な方向としています。

現2か年計画では、生産部会の強化による農業所得の向上や担い手の育成・確保を通じた農業振興、JA経営の収支改善策の実践、組合員・利用者との接点づくりの強化、組合員との対話を通じたJA運営への意思反映などを進め、組織基盤の強化を生産基盤とJAの経営基盤の強化につな

げる「JA運営の好循環」の実現に向けて取り組んできました。

一方、食料や農業を取り巻く環境は、世界的な人口増加や国際競争などの影響により食料輸入リスクが増大するとともに、国内農業においては、物価高騰に伴い農業生産コストが高止まりする反面、農畜産物への価格転嫁は進まず農業経営は厳しい状況が続いています。

こうしたなか、「食料・農業・農村基本法」が平成11年の制定から初めて改正され、農政は大きな転換期を迎えています。今後、食料安全保障の確保に向け、国内の農業生産の増大につながる政策展開が望まれます。

JAにおいては、少子高齢化や組合員・地域人口の減少、人手不足による雇用情勢の逼迫などが、組織・事業に影響を及ぼす可能性があります。このようななかで、JAが

将来にわたって地域から必要とされるためには、事業環境の変化に的確に対応しながら、協同の力を最大限に発揮し、農業所得の向上と暮らしの豊かさの実現に向けて取り組んでいくことが必要です。

このため次期「JA静岡3か年計画」では、「生産基盤」「経営基盤」「組織基盤」の強化を重点取組と位置付け、組合員個々の営農と生活に即した事業・活動の実践を徹底します。

「生産基盤」は、生産部会の「めざす将来像」で掲げた将来目標の実現や地域農業を支える多様な担い手の確保を通じて産地の維持・強化を目指す。「経営基盤」は、組合員との接点強化やJAの事業・活動を支える職員のエンゲージメント向上、部門別・場所別損益管理の徹底により、JA経営をより安定したものとしていきます。「組織基盤」は、広報活動や事

業・活動を通じて農業・JAへの理解・共感を醸成し、食べて応援、作って応援を实践する組合員・地域住民(農業振興の応援団)の拡大や組合員とのさらなる関係強化につながるのと同時に、協同組合に対する理解を深める組合員の学びの場づくりの充実を図ります。

組合員とJA役職員の力を合わせて、次期「JA静岡3か年計画」を着実に実践することで、農業と地域の未来を築いていきましょう。



ふれあい農協祭



令和6年度「ふれあい農協祭」
令和7年1月開催地区 開催日のご案内

地区	開催日	開催場所
東南・中央地区	令和7年 1月11日(土)	浜松市総合産業展示館
湖北地区	令和7年 1月19日(日)	JAとびあ浜松引佐支店
浜北地区	令和7年 1月26日(日)	JAとびあ浜松浜北営農緑花木センター

JAとびあ浜松のデータ

令和6年10月31日現在

●組合員数総合計	78,885人
正組合員	19,849人
准組合員	59,036人
●出資金	35億8,622万円
●貯金	1兆2,683億6,449万円
●貸付	2,223億9,472万円
●共済保有高	3兆2,532億1,083万円
●販売品取扱高	117億4,409万円
●購買品取扱高	44億2,581万円
●正職員数	1,074人

経営管理委員会だより

(令和6年10月29日)

- 協議事項1
「JAとびあ次期3か年計画の策定について」
実施年度が令和7年度から令和9年度までとなる次期3か年計画の策定について協議が行われ承認されました。

(令和6年11月28日)

- 協議事項なし